

ご意見の概要と市の考え方

【計画全体】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
1	主な取組で、すでに取り組んでいるものは前年度実績数を記載した方が分かりやすいのではないか。	前期計画からの継続事業については、現状値として2018年度実績を記載させていただきます。
2	「子ども・子育て支援が切れ目なく続いている」とあるが、現状未就学児は支援が手厚いが、「子育て」の対象は幼い子どもだけではない。中学生では支援が途切れてしまう。	中学生・高校生本人への支援としては、子ども自身の居場所の充実を、子ども・子育て家庭には相談先があることの周知を引続き行っていきます。
3	保護者ヒアリングに「中学校給食をもっと検討してもらいたい。」とあるが、集められた意見をどう反映しているのか分からない。	保護者ヒアリングは、アンケート調査結果を補完するために行いましたが、いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
4	[基本理念]の説明の中で、「「子どもの未来」を重点的に捉え、町田市で育つ子どもの未来が輝かしいものとなるよう」という文章があるが、基本目標Ⅰから考えると、今を輝かした結果、未来が輝くと思われるがいかがか。	基本理念につきましても、10年計画の後期行動計画のため、そのまま説明についても引継いでおります。ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
5	計画を推進するために、前提として保育士や先生たちの意見を聞き、定期的な推進状況・問題の検討、関係者の相互理解、予算の確保に努めるべきと考えるがいかがか。	「町田市子ども・子育て会議」には、保育園園長や小・中学校校長にも参加していただき、現場の声を聞いております。また、同会議で事業の進捗確認を行っております。子ども生活部以外の課も参加しており、事業実施のために、各課予算の確保や関係機関との連携を進めております。
6	保護者が困った時に、連絡を入れると関係部署につなげてくれる部署があると良い。横のつながりが欠けている印象があり、縦割り行政ではなく、どうすれば保護者の問題が解決できるかを考えてもらいたい。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。

【基本目標Ⅰ子どもが健やかに育ち、一人ひとり自分の中に光るもの持っている】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
7	学齢期に達した児童に対して、学校教育だけでなく、多様な教育の充実を望む。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
8	市が行っている児童厚生員や放課後指導員の研修にプレーリーダーも参加できるようにしてもらいたい。	

【Ⅰ-1-(2) 自分の意見を発信できる場や機会の確保】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
9	「子どもの参画」について、計画に記載しているように、子どもが意見を表明する機会を作って、子どもたちに周知してもらいたい。	現在、意見を表明する機会として、「子ども委員会」「町田市市民参加型事業評価」「若者が市長と語る会」などを設けております。また、2019年度から、市とともに町田の未来を考える若者グループ「町田創造プロジェクト(MSP)」を設立しました。今後もこうした活動を周知していくとともに、さらなる子どもの参画を進めます。
10	「子どもにやさしいまち」の取組みを行政だけではなく、民間と手を結び、あらゆる場面で子どもたちが意見表明や参画ができるまちが望ましいと思われるがいかがか。	

11	高校生世代以外の子どもの意見を取入れる視点が必要と考えるがいかがか。	様々な世代の子どもの意見を取入れる視点は、必要と考えています。現在は一例として、各子どもセンターに小学3年生から18歳までの子どもが参加する「子ども委員会」があり、子どもたちの意見が子どもセンターの運営に反映されています。
12	子どもの意見を聞く場はあるが、子ども自身にフィードバックする具体的な仕組みがないように感じる。	各子どもセンターの「子ども委員会」や「町田市市民参加型事業評価」、「町田創造プロジェクト(MSP)」は、発信した意見がどうなったかを答える仕組みとなっています。
13	子どもたちが意見を出すだけでなく、実際に何かを実現してみたり、子どもたち自身がまちに出て反応を知っていくことが、より深い経験値となって子どもが育つことにつながると思う。そのような場を作ってほしい。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
14	子どもセンター建設にあたっては、設計段階から「子どもの声」を反映し、完成後も子ども委員会で取入れている。しかし、小・中学校の改築においては、当事者の発言する機会がなく、要望があった際に紙アンケートを実施している。学校教育部でも子どもの意見を取入れるべきと考えるがいかがか。	

【I-1-(3) 子どもの悩みに対する支援の充実】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
15	主な取組「教育相談」で、利用者満足度は利用者の主観であるため、行政が目標値として使用するものなのか疑問に感じる。	利用者の満足度を上げることが有効な目標値であると考えております。
16	スクールソーシャルワーカーは、学童保育クラブからの要請で派遣できないのか。	学校からの要請に応じて派遣する取組のため、学童保育クラブからの要請では派遣しておりません。
17	事業案内「不登校の児童・生徒への支援」について、より取り組みやすい教材の提供や、不登校児童・生徒の親同士の交流の機会を設けてはどうか。また、不登校の児童・生徒とその家庭が求めていることが、学習支援や学校復帰なのか疑問に感じる。学校以外の教育の場も充実させるのはどうか。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
18	障がいのある子どもや特別支援学級に在籍している子どもは、不登校になったときに、けやき教室やくすのき教室のような行き場がないので、何とかして欲しい。	障がいのある児童・生徒につきましては、送迎等の条件がありますが、けやき教室・くすのき教室に現在も少数ですが通っています。今後特別支援学級の児童・生徒につきましては、適応指導教室の拡充を考える中で検討してまいります。

【I-2-(1) 幼児教育・保育の充実】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
19	事業案内「幼・保・小の連携 町田市接続カリキュラム」について、2019年度はカリキュラムを策定したものの、幼・保と小学校の共有が十分に図られていない。有効な活用を望む。	ご意見として承り、今後の幼・保・小連携事業の参考とさせていただきます。
20	主な取組「ICT教育の推進」について、現行の学校教育にICTを取り入れても教員の負担が増えるだけではないのか。適切な運用を望む。	教材を電子データで用意することで、繰返し使用できるとともに、更新や修正が容易であり他の教員とも共有することができます。また、同時に複数の教員で編集作業等が可能であるため、教材作成や資料準備の時間の短縮につながります。そのため、子どもたちに寄り添う時間に多くあてることができます。引続き、適切な運用に努めてまいります。
21	子どもにより良い保育を受けてもらうため、保育士の給料や家賃補助等の金銭面を充実させ、長く勤務できるようにしてもらいたい。	引続き、保育士のキャリアアップ補助金や宿舍借上げ事業等、国や都の制度に即して、保育士の処遇改善に努めてまいります。
22		
23	各園特色があるなかで、町田市としての「保育の質の向上」を発信することが大事になると思われる。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
24	保育園・幼稚園等、学童保育クラブなどの職員は、障がいに対する理解や援助の方法について基本的な部分は研修として必修にして欲しい。	毎年保育園・幼稚園等および、学童保育クラブ職員向けにそれぞれスキルアップのための研修を開催しており、障がいに関する研修も実施しています。

【I-2-(2) 学校教育の充実】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
25	町田市は都立中高一貫校がなく、都立高校の進学指導重点校もない。子育て世代が住む場所を選ぶ場合優先順位は低いと思われるので、公立学校の教育レベルの向上を望みたい。また市内各所に学生向け自習スペースの充実を図ってもらいたい。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
26	ICT教育の推進で、障がい児教育にもうまくICTを取り入れて欲しい。	

【I-2-(3) 子どもの心と身体の健康教育】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
27	食に対する知識を養うためには、中学校卒業までの一貫した食育が必要と考える。主な取組に公立保育園のみが記載されているが、小・中学校の取組みも必要ではないか。また、この書き方だと、公立保育園に通っていない児童は町田市の考える食育に触れる機会がないような印象を受ける。	各保育園・幼稚園等でも様々な食育の取組みを行っているため、公立保育園を代表として記載しております。また、小学校では基礎的な食習慣や健康的な食生活のあり方、マナーなどを、中学校では小学校での学びを踏まえた豊かな食生活について学ぶなど、食育の推進を行っております。本プランには、小・中学校での取組みを「その他の取組」として記載いたします。
28		

29	町田市はサッカーや野球などの集団で借りられるグラウンドはあるが、MTBなどの個人スポーツが取り組める場所がなく、スポーツをする環境が整っているとは言えないのではないかと。	町田市第二次野津田公園整備基本計画におきましては、BMX等のニュースポーツを行えるスケートボードパークを設ける計画としておりますが、具体的な整備時期につきましては定めておりません。ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
30	思春期のすべての児童・生徒に性教育（人権教育・性の自己決定について）を行うべきと考える。	学習指導要領に基づいて実施してまいります。

**【基本目標Ⅱ子どもが安らいでいる家庭があり、家庭が地域とつながっている】
【Ⅱ-1-(1) 妊娠期から子育てを支える】について**

番号	ご意見の概要	市の考え方
31	多胎児家庭への支援を充実させてもらいたい。（子育てひろばは、双子だと断られることがあると聞いた。多胎児家庭のニーズを把握し、支援をしてもらいたい。）	ご意見として承り、引続き多胎児家庭のニーズを把握し、支援に努めてまいります。また、今回いただいたご意見を、市内の子育てひろば実施園とも共有してまいります。

【Ⅱ-1-(2) 子育ての相談・支援の充実】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
32	相談センターは相談しやすい環境にあるとは思えず、子ども家庭支援センターへの相談は虐待レベルな気がする。未然防止のためにも相談に行けない人に手を差し伸べるべきではないかと。	子育てひろばの利用が長期的にない、または、マイ保育園の登録がないご家庭を対象に、家庭訪問等を通じ現状を確認し相談に対応しております。今後も引続き取り組んでまいります。
33	マイ保育園を登録したが、メリットが感じられない。支援が充実しているとは思えない。	各園から送られる情報誌の内容の充実を図り、より相談しやすい「かかりつけ窓口」となるよう、引続き取り組んでまいります。
34	ショートステイ、トワイライトステイの周知をもっとする必要があると思われる。	ご意見として承り、引続き制度について、周知をしてまいります。
35	小学校生活に向け、また親の気づきを促す機会としても、5歳児健診の検討が望まれる。	ご意見として承ります。
36		

【Ⅱ-2-(1) 多様な保育の充実】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
37	学童保育クラブについて、「新・町田市学童保育クラブ質の向上5ヵ年計画」の「狭あい化対策の方針」があるが、面積だけ増えても子どもの生活の質が保障されるのか疑問がある。	「町田市放課後児童支援員資質向上研修の実施」や「学童保育クラブ巡回アドバイザーの導入」などにより、サービスの向上に努め、子どもの生活の質を保障してまいります。
38	0～2歳児の保育園ニーズ量が減っているが、まだ増え続けている現状があるので、保育園施策の充実をお願いしたい。	保育園入園申請は増加傾向にあります。が、少子化であることをふまえ、必要な地域に必要な整備を引続き進めてまいります。

39	一時預かり事業は予約で埋まっていて、必要な時に利用できない。各園ごとの登録なので、申請・聞き取りを統一し、全園の空き状況が分かるシステムがあれば、利用しやすくなると思われる。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
40	出産後、産褥期であるにも関わらず、上のきょうだいの土曜保育を断られるケースがあるようだが、園の保育士配置基準を独自で見直すことはできないだろうか。	

【Ⅱ-2-(2) 男女共同の子育てを進める】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
41	「父親対象育児講座」が増加目標なのに、「両親学級」の「父親の参加人数」が目標値が横ばいになっている。市として父親の子育てを推進したいのか、分かりにくいので、推進するのであれば増加目標にした方がよいのではないか。	「両親学級」については、2018年度実績で参加率が95.4%で高水準となっております。参加人数の場合、全体の参加者数が分かりづらいため、参加率に変更し、引続き高水準を維持してまいります。
42	子育ては女性が主という風潮がまだあり、父親だけの外出・仲間づくりなど不自由なことが多い。町田市として、啓発と事業の充実を求める。	父親の育児参加については、引続き現状を把握しながら啓発を進めてまいります。

【Ⅱ-3-(1) 発達に支援が必要な子どもと家庭への支援】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
43	保育園では、コミュニケーションや、感情のコントロールがうまく取れない子どもが多くみられる。集団・社会生活に適應していけるように、保育士や保護者にアドバイスをする人がいると良い。保育園でのアドバイスは保護者も受け入れやすいので効果があると思われる。	現在行っている「保育所等訪問支援事業」や「出張相談事業」などは、専門的な知識を持つ職員が保育園等に伺い、発達に支援が必要な子ども自身や保育士・保護者を支援する取組みとなっております。引続き制度の周知・啓発を行ってまいります。
44	主な取組「保育所等訪問支援事業」について、保護者の理解が得られないが発達に特性のある子どもに、保護者の同意がなくとも訪問支援ができる体制を構築すべきではないか。	保育園・幼稚園等からの依頼に基づき訪問する「出張相談事業」があり、専門的知識を持つ子ども発達センターの職員が対応をしています。
45	子ども発達センターが18歳まで相談できるようになったが、就学後の人たちの相談が少ないようなら、18歳まで相談できるアナウンスが必要なのではないだろうか。	ご意見として承り、広報・ホームページなどを通じて引続き周知を図るとともに、身近で相談しやすい環境を整えてまいります。
46	「地域参加支援事業」のように、理解のある人が公共の場でトラブルを起こしやすい子どもに同行してもらえるのはありがたい。	引続き、「地域参加支援事業」を推進してまいります。
47	理解促進事業や公開講座は、興味のある人しかこないもので、もっといろいろな機会を使って行ってほしい。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
48	就学・進学相談については、ある時期まとまって行っているため、「年間」という言い方は誤解されないか。また、「支援を考える」というより、「就学・進学先を考える」ものと思われるので、これも誤解されないか。	誤解を生じない表記に見直しさせていただきます。

49	人数制限により、子ども発達センターで養育を受けることができない未就学児が多くいる。行政の対応だけというのは現代にマッチしていない。民間を活用し、連携をとっていくべきである。	ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
50	療育セミナーや保育所等訪問支援事業などがあるようだが、保育園・幼稚園の先生への相談や学習の機会、関連機関とのネットワーク作りなどに力を入れてもらいたい。	
51	現在は支援を必要とする家庭にサービスが行き届いているとは言い難い。気軽に相談できる窓口の増設や、発達障がいがある子どもが使えるサービスに確実につながるようにしてほしい。	

【Ⅱ-3-(3) 虐待の防止と支援の充実】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
52	虐待の背景に、親や子どもの知的障がい・発達障がいがある場合も多いように思うので、支援する側にはそちらの理解も求めたい。	虐待の背景にはご指摘いただいた点があることを認識し、今後も特性を踏まえた対応に努めてまいります。

【基本目標Ⅲ子どもが安らいでいる家庭があり、家庭が地域とつながっている】

【Ⅲ-1-(4) 子どもの居場所の充実】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
53	成瀬駅周辺には子どもセンターがないので、子育て世代の保護者の憩いの場が欲しい。	本プランの「子どもクラブ整備方針」で、より効果が期待できる場所へ子どもクラブを整備することとしており、成瀬エリアは優先して整備する方向となっております。具体的な整備地については、今後検討してまいります。
54	成瀬地域に作る子どもクラブの場所は成瀬台地域の子どもたちも行きやすい場所にしてもらいたい。	
55	まあちは混んでいるので、9時頃から遊べる、町田駅前での雨天でも遊べる子ども施設の設置を検討してもらいたい。	

【Ⅲ-2-(2) 子育てしやすいまちづくり】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
56	義務教育就学児医療費助成制度の所得制限の撤廃はしないのか。	P99にも記載しておりますが、2021年4月から所得制限の撤廃導入を予定しております。

【その他】について

番号	ご意見の概要	市の考え方
57	「町田市子ども憲章」について子どもマスタープランで触れられていないのはなぜか。	今回「関連法・国の動向・その他計画など」は全てP154以降にまとめております。子ども憲章については、P27で触れ、全文はP159で掲載しております。

58	「町田市子ども憲章」は、素晴らしい取組みなので、もっと活用してほしい。	いただきましたご意見については、関連部署と情報を共有してまいります。
59	町田で育つ子ども全員に「子どもの権利」について学ぶ機会を作ってほしい。	
60	学校でも「子どもの権利」の保障や学習を行ってほしい。	
61	学校という場で基本理念である「子どもが自分らしく安心して暮らせるまちをみんなで創り出す」の「子どもの権利」を守ってほしい。	
62	「子どもの権利」「子ども参加」の啓発活動や取組みを行ってほしい。	
63	子どもが「子どもの権利条約」を学ぶ機会や、「子どもにやさしい空間」の研修を、職員や市民へ行ってほしい。	
64	「子どもの権利条例」の制定について、行政内で必要性を認識してほしい。	
65	HPV（子宮頸がん予防ワクチン）について、対象年齢の女子がいる家庭にきちんと情報を伝えてもらいたい。	厚生労働省より2013年にHPVワクチンの積極的な接種勧奨の差し控えが決定され、町田市でも同様に接種勧奨を差し控えています。そのため、個別にご案内はしていませんが、まちだ子育てサイトにおいてHPVワクチンに関する情報提供を行っております。
66	人口に対して、図書館の数が少ない。子どもたちの本離れを問題にするなら、図書館の数を増やしてもらいたい。	町田市では、公共施設の老朽化や厳しい財政状況の中でも、必要な公共サービスを将来にわたって維持していくため、さまざまな取組みを行なっています。そのため、新しく図書館を建設することは難しい状況にあります。また、移動図書館車のあり方については、今後検討してまいります。
67	「第四次町田市子ども読書活動推進計画」の理念目標と図書館を減らしていくことは矛盾している。小学生が歩いて行ける場所に図書館を増やしてもらいたい。	
68	そよ風号を全面的に廃止するのではなく、月1回でも存続させてもらいたい。	
69	小学校と同じように、中学校も給食を始めるべき。	現在、町田市では、学校給食法に基づき、教育委員会の栄養士が献立を立て、民間業者が調理・配送を行う弁当併用外注給食方式（デリバリー方式）で中学校給食を提供しております。 現在提供している中学校給食については、アンケート等のご意見を参考にしながら、利便性の向上や献立の改善などを行い、少しでも多くの方に中学校給食を利用していただけるよう、給食を利用しやすい環境を整えてまいります。
70		
71		
72		
73		
74		
75		
76		
77		
78		
79		

80	市立の小・中学校体育館のエアコン整備について、災害拠点としての役割も考えると、文科省でも推奨している太陽光発電設備の設置はしないのだろうか。	現在、エアコン整備に合わせ、避難施設の機能向上を目的に、小・中学校全62校に非常用発電機やガスタンク等の設置工事を2020年度と2021年度の2カ年で計画しております。また、非常用発電機は安定して長時間使用できるプロパンガスや都市ガスを使用しています。ご意見にあります太陽光発電では避難施設に必要な電力を安定的に確保することが難しく新たにコストもかかることから、太陽光発電設備を設置することは考えておりません。
81	学校のプールは、災害時に使用することや、昨今の紫外線の強さをふまえると、屋内プールに移行するべきではないだろうか。	プールの建替えについては、多額な予算が必要なことから「町田市公共施設再編計画」や「学校適正規模・適正配置等審議会」の考え方や今後策定する「学校個別施設計画」の動向を踏まえ検討していきます。
82	地域子育て支援拠点事業として冒険遊び場を検討してもらいたい。	いただきましたご意見や要望については、関連部署と情報を共有してまいります。
83		
84	常設の冒険遊び場が持続可能な活動になるよう、委託	
85	化または指定管理化をしてもらいたい。	
86	子育て支援の活動をしているグループ（サークルなど）をつなげる場や、民間版の子育て情報誌を作ってもらいたい。	
87	町田市は坂が多くて、移動が大変なため、子育て世代（未就学児）のバス利用料金を減額してもらいたい。	
88	子育て環境全般（タバコの規制、性犯罪の厳罰、高齢者の運転規制、選挙カーの禁止など）について検討してもらいたい。	